

平成29年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成					
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成					
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成					
2 今年度の重点目標	1 学力向上とキャリア教育の充実		4 特別支援教育の推進		7 生涯学習講座の充実	
	2 生徒指導の充実		5 保健衛生・安全管理指導の充実			
	3 社会性の育成		6 危機管理体制の整備			
3 昨年度の成果と課題	1 進路決定率は定通とも目標を達成したが、今年度も継続してキャリア教育の充実を図り、質的な向上も含めて目標の達成を図る。					
	2 出席率や読書活動はほぼ目標を達成しているが、通信制の単位取得率が目標を下回っており、取得率向上の対策が必要である。					

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	・開かれた学校づくりの推進 ・信頼される学校づくりの推進	・学校評価の実施と活用 ・学校関係者評価の活用 ・教育公務員としての倫理観の涵養	B	HPを行事の都度更新するなど、広く学校内の情報発信に努めた。また、今年度は、山形警察署に依頼し、職員対象の交通安全講話を行うなど倫理の向上に努めた。	HPの更新は勿論、霞城学園通信等の文書通信を一層充実させ、学校の様子がより広く分かるような情報発信に努める。また、学校評議員の意見を広く求め、学校経営の充実に一層生かしていく。	B	SNS等の活用も効果があるのではないかと。文書通信、HPについては、誰に対してどのような目的で発信するのかを精査し、過度になりすぎ教員の負担にならないようにしてほしい。
学習指導	・確かな学力の育成 ・確かな学修の保障	・授業評価の実施と活用 ・シラバスの作成と活用 ・面談・添削を通じた学習意欲の喚起	B	探究型学習の職員研修会と年2回の授業評価を実施し、授業改善に努めた。教科ガイダンスや個人面談等を通して、生徒一人ひとりの学習意欲喚起に努めた。	職員研修会で学んだ理論・方法や授業評価の結果を生かして、更なる授業改善を進める。生徒個々の目標に応じた履修登録を進め、生徒の単位修得率向上と学習意欲の更なる高揚に努める。	B	学習意欲にばらつきのある生徒に対して、どうやって個々に対応できるか難しい問題であるが、引き続き努力に欲しい。 教科間・教員間で共有を深め、生徒が理解しやすい環境づくりを続けてほしい。
生徒指導	・人間の在り方生き方を考える生徒指導の充実 ・いじめ防止の取組の充実	・HR活動や行事を通じた自己有用感と他人を思いやる心の育成 ・本校らしい、いじめ防止の取組の実行	B	学校祭等の生徒会行事への積極的な取り組みにより自己有用感の醸成を図った。地域の清掃活動や植樹プロジェクトのボランティア活動を実施し、社会性の育成に取り組んだ。2度のアンケート調査により、いじめの把握と防止に努めた。	新入生の高校生活初期の生活指導を、これまでと同様に細やかに丁寧に行う。日々のHR活動・生徒会活動等を通して、人との関わり方や社会での生き方を身につける指導・活動を続ける。	B	人間関係をこじらせると修復するのが難しいといったことも起こると想像できる。今後も早めの対応をお願いしたい。 今後も一人一人に寄り添った対応を心がけていただければと思う。
進路指導	・キャリア教育の充実	・進路情報提供と進路ガイダンスの実施 ・CSプロジェクトの推進による社会力の向上と健全な職業観・勤労観の育成 ・卒業予定者の進路決定率の引き上げ	B	就職は、第1次応募の内定率は4割程度であったが、進路サポート室を中心とする指導により、第2次応募では多くの生徒が内定をいただいた。1/30現在の定時制の進路決定率は75.51%である。	CSプロジェクトの成果を継承するための取組み。早期に進路意識を高めるための指導のあり方の検討。生徒の社会力を高めるための体制作り（ライフスキル・ソーシャルスキルの育成）。	B	一般的働き方だけでなく、ユニークな働き方をしている人を沢山紹介して欲しい。 就職・進学は勿論、基本的な社会力を身に付けるニーズも大きいと思う。柔軟に応じられるよう今後ともお願いしたい。
健康安全指導	・保健衛生安全管理指導の充実 ・危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの点検 ・防災・不審者対策の訓練・研修の実施 ・医療相談機関との連携の強化	B	防災・不審者対策の訓練および研修を実施し具体的な対応を確認すると共に危機管理意識の向上に努めた。また、教育相談会等を複数開催し医療相談機関との連携充実を図った。	ビルを総括する霞城セントラル管理組合との連携を密にしながら引き続き訓練・研修を実施し危機管理体制の充実を努める。また、精開催し医療相談機関との連携充実を図った。	B	一人でいる生徒に声掛けするなど、生徒を気にしている姿勢が安心感に繋がって評価できる。 エレベーターで外部と繋がっていることを考えると、他の学校に比べて不審者対策は難しいと思うが、万一来た対策をお願いしたい。
家庭・地域との連携	・保護者や地域への情報発信 ・生涯学習講座の充実	・「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 ・HPを利用しての情報発信 ・魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	各種通信の発行やHPの活用を通してタイムリーな情報発信に努めた。また、生涯学習講座の内容充実を図り魅力ある講座に努め、ロボット工学講座での受験生増加に繋がった。	HPでの情報発信ではより多くの人から閲覧していただけるよう発信内容の検討を図る。また、生涯学習講座では引き続き内容を検討すると共に外部へのPRを強化し参加者拡大を目指す。	B	ITの活用は、保護者間の伝達や生徒の社会での触れ方にも関わる。IT技術の進歩に応じた柔軟な対応願いたい。 城南町との関わりがもう少しあっていいのではないかとと思う。
特別支援教育	・保健衛生安全管理指導の充実 ・特別支援教育の推進	・支援を必要とする生徒への指導体制確立 ・個別の支援計画や支援プログラムの作成 ・授業のユニバーサルデザイン化	B	支援の必要な生徒に対して、個別の支援チームを組み、情報を共有し、外部機関の指導・助言も受けながら組織的に対応した。ライフスキル講座を引き続き実施した。	職員研修会の実施等を通じ、特別な支援を必要とする生徒への理解を深め、個々の生徒のニーズに対応するためのさまざまな知識の習得・スキルの更なる向上を図る。	B	養護学校等の外部人材からのノウハウの蓄積を続けてもらいたい。 生徒への理解を前提としながら、一般的な教育現場にとらわれず、その生徒に必要な手助けをしていただきたい。